

弘前大学教育学部附属特別支援学校

学校だより



令和3年度第1号
令和3年4月16日発行

「今年度の学校経営方針について」

校長 川村 泰弘

本校では、「自分のもっている力を精いっぱい発揮し、積極的な社会参加をめざす」という目標の下、これまで、スポーツ庁委託事業「Special プロジェクト2020」によるスポーツ活動や、造形活動をはじめとする表現力を高める教育、本校が事務局を務める「つがる地区障害者就労支援連絡会” さくらジョブネット”」と連携した就労支援、キャリア教育の一環として地域での清掃活動や喫茶スペースの運営等に取り組んできました。

また、本校は弘前大学教育学部の附属学校として、在籍する児童生徒の学びと成長を保障する場であるとともに、大学の教育と研究の場としての使命も担っています。現在、弘前大学では、教育行政機関と教育・医学連携による教育課題解決に向けた取組を進めており、附属学校園においては大学の方針の下、特に「健康教育」と「インクルーシブ教育」の推進に向け、協同で実践研究に取り組んでいます。この中で、本校では健康教育をテーマとした全校研究として、児童生徒が自らの健康課題に進んで取り組むための支援方法を探るとともに、インクルーシブ教育システムの構築を目指した取組として、地域の児童生徒とのスポーツ交流や、附属小学校内に開設している学習支援室（ぴあルーム）において、附属学校園の幼児児童生徒に対する支援を行っています。

つきましては、これまでの取組の更なる充実を目指し、令和3年度の学校経営方針を別紙のとおり策定しました。経営の重点としましては、①研究活動の充実と専門性の向上、②地域との連携や交流及び共同学習の充実、③体育的・文化的活動の充実、④小中高一貫したキ

両面印刷

キャリア教育の充実、⑤学習環境の整備と児童生徒の安全の確保の5点を掲げ、新型コロナウイルス感染症の防止に向けた安心・安全な学習環境の構築に努めながら、全教職員で教育活動の充実に取り組んでまいります。

また、今年度は国のGIGAスクール構想として、全ての児童生徒分のタブレットパソコン(iPad)が導入されました。タブレットパソコンや情報通信技術(ICT)は、コロナ禍における学習ツールとしても活用効果が期待されており、本校では、iPadの授業活用をはじめ、バーチャルリアリティ(VR)ゴーグルを使った疑似体験、オンラインによる交流学习や授業など、情報通信技術(ICT)を積極的に教育活動に取り入れていきたいと考えています。

保護者の皆様には、本校の教育活動に対しまして、今後ともご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

～入学式～

春の優しい日差しが差し込む4月8日(木)、弘前大学みちのくホールにて、令和3年度入学式が行われました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小して行いましたが、小学部3名、中学部6名、高等部4名の新入生を迎えることができました。当日、入学許可の際、新入生は大きな声で返事をしていました。また、生徒会長が動画での挨拶で、歓迎の言葉を伝えるなど、明るい雰囲気の中で式を終えることができました。



～お知らせです～

本校では、新型コロナウイルス感染症対策として、本人または同居する家族の方が、感染あるいは濃厚接触者となった場合は、速やかに学校へ報告いただき出席停止の措置をとらせていただくこととしておりますが、「弘前大学体調変化と登校・出勤の基準」をもとに、発熱(37.5℃以上)や呼吸器・上気道症状等が認められた場合につきましても、保護者の皆様に以下の対応をお願いすることといたしましたので、ご理解とご協力をお願いいたします。

- かかりつけ医あり;かかりつけ医に電話相談
- かかりつけ医なし;県コールセンターに電話相談(電話0120-123-801)
- 感染者に接触などの心当たりあり;最寄りの保健所に電話相談
- 解熱後72時間経過、症状が改善傾向になるまで登校を控えていただく

学校だよりでは、学校の様子を保護者の皆様等に発信してまいります。父母の会の広報誌「とみの」や学部・学級通信、本校ホームページと同様、本校の教育活動の様子をお伝えできればと考えておりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。
＜文責:教頭＞